

特集 言葉を支えに

6面 そうだ、本を読もう!

7面 沖縄YWCAニューズレター『うーまん世』より

The Young Women's Christian Association

YWCA

(第32総会期主題聖句)
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

(日本YWCAの使命(ミッション))
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

(日本YWCAのビジョン)
地域で女性達が主体的に活動することを通して、
以下の社会をめざします。
(1)平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
(2)女性と子どもの尊厳を守る社会
(3)若い女性がリーダーシップを発揮する社会
(4)多世代・多文化で多様な背景を
持つ人びとを尊重する社会

6

JUNE 2020

No.756

www.ywca.or.jp

避けがたい 試練を生きるときは 言葉を頼みにして 道をすすめ

批評家でカトリック信徒である若松英輔さんの詩『言葉の羅針盤』の一節です。
まさに今、私たちに必要なのは、よりどころとなる言葉ではないでしょうか。
今日一日を、これからは、歩むヒントになりそうな言葉を集めました。
どれか一言でも心に響いたらうれいけれど、ここでなくても、
どこかで、よすがとなる言葉に出合えることを願って。

出典「言葉の羅針盤」若松英輔(垂紀書房)



2019年
4月1日
↓
2020年
3月31日

2019年度 寄付報告

活動へのご賛同、ありがとうございます

- ピースメーカーズ募金 2,034,564円
(平和を創りだす女性のリーダーシップ養成)
- 災害時支援募金 1,316,047円
(国内外の災害被災者支援、パレスチナ支援、北海道地震/台風19号等被災者支援含む)
- 東日本大震災被災者支援募金 2,971,972円
(カーロサポーターズ募金含む)
- オリーブの木キャンペーン募金 574,00円
- 賛助費 1,388,000円
- 地域YWCA助成金 410,000円
- 世界YWCA総会派遣募金 2,500,702円
- 次世代育成資金 24,532円

2020年度もよろしくお願いたします

※当法人へのご寄付は、税額控除の対象となります。
※メールまたは振替用紙通信欄で次の情報をお知らせください。領収書を発行します。
①振込日 ②金額 ③お名前 ④ご住所 ⑤寄付項目
⑥お名前のアルファベット(オリーブの木キャンペーンへのご寄付のみ)
※ご希望の寄付項目を必ずご指定ください。
※年間3,000円以上のご寄付で、機関紙を発送いたします。

銀行への振込
振込先 三井住友銀行 飯田橋支店 普通預金 1198743
(口座名義) 公益財団法人日本 YWCA
コウエキザイダシホウジンニホンワイドプリユシーエー

郵便振替 00170-7-23723 (加入者名) 公益財団法人日本 YWCA
他行からの振込 ゆうちょ銀行 ○一九支店(ゼロイチキュー)
当座預金 23723
(口座名義) 公益財団法人日本 YWCA
ザイ) ニホンワイドプリユシーエー

『言葉の羅針盤』

若松英輔/著 垂紀書房/発行
1,500円+税



わたしを導く言葉は、わたしのなかにあった——。
著者は批評家であり随筆家。自らを「読む、書く、考えるをテーマに活動している」という。言葉の人である。

本書では、日々の生活の中でふいに浮かび上がった言葉に立ち止まり、かつて読んだ書物の言葉を引き合いに黙想する。古今東西、有名無名の先人たちの言葉と、著者の言葉が響き合い、やさしく静かな語り掛けで読む者を励ます。

たった一つの言葉が、人生を変えることがある。言葉の羅針盤に従って人生を歩んでいこう、こころの中にある眼と耳を開いて……そんなメッセージが聴こえてくるようだ。

book review

- ご協力ありがとうございました
- 賛助費
永吉敬子 木田みな子 黒木順子
中山美津江 松原恵美子
- ピースメーカーズ募金
平和をつくり出す女性のリーダー
シップ(養成)
千田透 熊沢義喜 吉米地久子
松原恵美子
東洋英和女学院中・高部 宗教委員会
日本基督教団 代々木上原教会
梅花高等学校 自治会
ブール学院中学校・高等学校
公益財団法人名古屋YWCA
世界YWCA総会派遣募金
黒木順子
公益財団法人名古屋YWCA
公益財団法人神戸YWCA
匿名
- 災害時支援募金
(オリーブの木キャンペーン募金)
黒木順子
美唄めぐみ幼稚園
- (国内外の災害被災者支援)
松山YWCA
公益財団法人福岡YWCA
公益財団法人名古屋YWCA
(台風19号等被災者支援募金)
公益財団法人名古屋YWCA
(北海道胆振東部地震被災者支援募金)
学校法人東洋英和女学院 宗教教育委員会
- 東日本大震災被災者支援募金
牧南 中山美津江 塗美紗子
目白ヶ丘教会 東北WG
ヘッセセントナツナー教会
学校法人東洋英和女学院 宗教教育委員会
横浜共立学園
三市Y(横浜・湘南・平塚)委員会
弘前YWCA
- (カーロサポーターズ募金)
関直子
在日本南フレシベリアンミッション
カーロサポーターズ 61件
- (2020年2月16日~4月15日
敬称略)

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121 Fax.03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 実生律子/偶数月1日発行

旬な情報発信しています | メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp | お名前を送ってください / フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan

メールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 office-japan@ywca.or.jp

無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。

人生を味わう 三つの 言葉

青山学院大学
宗教部長
塩谷直也

初めての場所に旅行く時、昔は分厚い時刻表を細かく調べたものです。でも今はスマホの路線案内で最短ルート、最安値まで一瞬でわかります。いや実には、失敗しない、迷わない、面倒くさいことを省ける世の中になりました。とりわけ検索機能は便利ですね。これさえあれば、世界のほとんどを把握できる気すらします。しかし一方、この便利さが災いし、私たちの出会いの世界はどんどん狭まっています。

「フィルターバブル」という言葉をご存じですか。自分好みの情報の膜（バブル）に包まれる状態のことを言います。あなたの検索・閲覧履歴をもとに、最適なコンテンツが表示される仕組みによって、いつの間にか自分好みの情報ばかりに接し続けることです。あなたの関心のない情報から、逆に隔離され、あなた個人の考えの被膜（バブル）の中で孤立するわけです。情報は溢れるほどあるのに、実際は偏った情報しか集まらないとは、何たる皮肉なことでしょう。検索の便利さは認めつつも、この検索が私たちを逆に孤立させ、偏った情報に閉じ込めていないでしょうか。そこで検索を利用しつつもそれを超えるヒント、人生のフィルター

バブルを打ち破るカギとなる「言葉」を、三つ考えてみました。

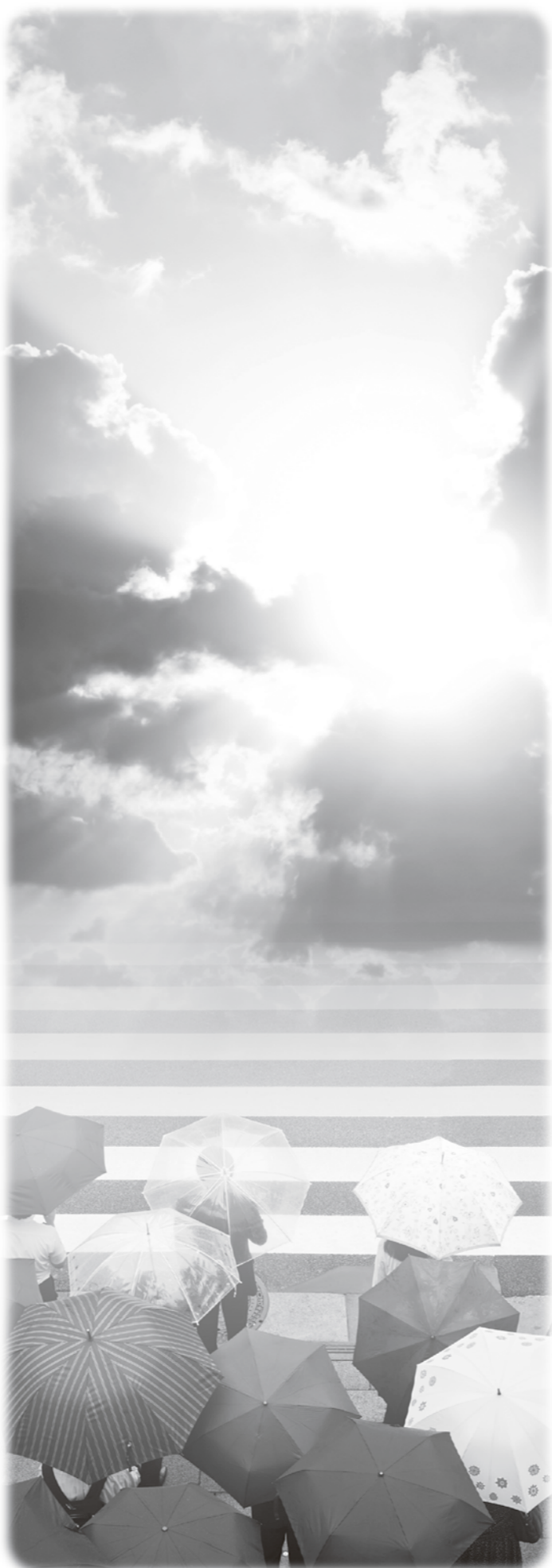
1 失敗

少し前ですがスーパーで慌ててまとめ買いをして帰宅、大急ぎで食材をキッチンに置きました。すると妻が大声を出しました。「なんてキャベツを買ってきたの？」見るとキャベツ一個に1000円を超える値札が付いています！ サヴォイキャベツと言う品種でオランダ産との表記。どうやら老眼も影響して価格を一ケタ勘違い……妻も私も軽いショックを受け、うなだれました。でも食べないわけにはいけません。そこでこの品種を調べてみると肉厚で煮崩れし

にくくロールキャベツに向いているとのこと。早速ロールキャベツにすると、おいしい……ちよつぴり世界が広がりました。1000円超えのキャベツを買うなど明らかに失敗です。しかしその失敗を通して、私は知らなかった世界を知りました。フィルターバブルが少し破れました。

2 気が乗らない

妻の話をしましたが妻との出会いも不思議なものでした。大学時代、仲のいい先輩が柔道部でした。とにかく部員が少なく、幽霊部員でいから入ってほしいということで、形だけ入部。そして練習は出なかった



けれど柔道部の懇親会だけには顔を出したのです。すると、そこに妻がいたのです。いやだけど仕方なく出たのです。しかしそこで私は、その後の人生を共に歩いてくれる人と出会いました。

「短い人生、関心のあることだけやりたい」というのは理にかなっていません。でもそれは自分の小さな脳内で意識が到達しうる狭い世界、膜の中で生きたいということです。逆に関心がないけれどやってみるといのは、勇気をもってその膜を打ち破り、広い世界に踏み出すことではないでしょうか。

3 見捨てても見捨てられない世界

ついでに言うと、妻と私が出会った大学はキリスト教の大学で、「キリ

スト教概論」が必修でした。私はその授業にまったく関心がなく、不真面目で、その単位を落としました。そして再履修。ところがこの再履修の学びの中で「聖書」が面白くなり、やればやるほど、その魅力にどんどんハマっていきました。やがて気が付けば聖書を学び、その魅力を伝えることが私の仕事、使命になっていったのです。どうやら「キリスト教概論」を落としても、「キリスト教概論」が私を見捨てなかったようです。おかげで今は、大学で「キリスト教概論」を教えています。

サヴォイキャベツが教えてくれました。失敗は新しい世界の扉を開けてくれると。妻との出会いを通して知りました。「面倒くさい場所に、私

を待っている人がいるのかもしれない。キリスト教概論を落とし、それでも牧師になった自分の人生を振りかえって驚くのです。あなたがそれに対し無関心で見捨てても、向こうはあなたに関心があり、あなたを決して見捨てない場合もあると。

「検索」はこの貴重な三つを省略します。失敗しない情報を提供します。行きたくないところは行かなくて済むよう指示してくれます。何度も見捨て、消去したコンテンツはやがて画面に登場しないようにします。便利です。でもこれが人生であるはず

がありません。本当の人生の醍醐味は、「失敗」、「行きたくないところ」、「見捨てた場所」に見つかるのではないのでしょうか？

思えばイエス・キリストは2000年前、あなたはいららないということ

で、十字架上で殺されたのです。歴史の中で、イエスは不要なコンテンツとして削除されたのです。ところが聖書によると、イエスはその三日後に復活します。人間の歴史は、自ら関心のないものを次々とフィルターバブルの外へ追いやるのですが、イエスは歴史のフィルターバブルを打ち破ってよみがえったのです。捨てられたものが、のちに、生きる。そう、これが人生なのです！

profile

しおたに なおや
1963年生まれ。国際基督教大学卒業、東京神学大学修士課程修了。教会の牧師を歴任。2002年から5年間、東京YWCA専門学校福祉科の非常勤講師（キリスト教と人間理解）。2008年から青山学院大学宗教主任として学生伝道に従事。2014年、同大学法学部教授。2019年、同大学宗教部長に就任。著書に「視点を変えて見れば 19歳からのキリスト教」（日本キリスト教団出版局）、「にゃんこパイブル 猫から学ぶ聖書の言葉」（保育社）など。

昨日は去りました。
明日はまだ来ていません。
私たちにはただ、今日があるのみ。
さあ、始めましょう。

マザー・テレサ

今いるところで、
今持っているもので、
あなたが出来ることをやりなさい。
セオドア・ルーズベルト

たとえば、子どもといっしょに
空を見あげてみましょう。
そこには夜明けや黄昏の美しさがあり、
流れる雲、夜空にまたたく星があります。
レイチェル・カーソン



考えてみたら、命を守る以外ないんですね、最後は。
どこにいてもね。
生きてもらうことに尽きてしまっただけですよ。
いろいろな生き方はあってもね。
大事なことだと思えますよ。
緒方貞子

生きるということは、本当は、喜びです。
生きていくというのは、本当はとても、
うんと面白いこと、楽しいことです。
かこさとし

さあ もう寝よう
明日は きっといい日
晴佐久昌英



ベストと戦う唯一の方法は、誠実さということ(中略)
つまり自分の職務を果たすことだと心得ています

リウー

ピンチをチャンスに変えようと言う
無理して変えなくていい
生きてりゃいい

就労支援食堂「ウノアオトロ」スタッフ



本来の私たちを取り戻しましょう。
一人ひとりが変わることで、
それぞれが得意な分野で、
世界を変えるために何かをすること。
それがいまでも必要です。
自分の道は自分の足でしか
歩くことができません。
武藤類子

正確な情報で行動を！

石巻日日新聞(聖新聞) 2011年3月12日

あきらめるな。がんばれ。
光が見えるだろう。
そこに向かって這って行け。

サーロー節子



主よ
変えられるものを変える勇気を、
変えられないものを受け入れる冷静さを、
そして
変えられるものと変えられないものを
識別する知恵を与えてください。
ラインホルド・ニーバー

喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい。

『新約聖書』ローマの信徒への手紙12章15節

人間はわかりあえない。
でもわかりあえない人間同士が、
どうにかして共有できる部分を見つけて、
それを広げていくことなら出来るかもしれない

平田オリザ



「信頼」は一朝にして築かれるものではない。
利害を超え、忍耐を重ね、
裏切られても裏切り返さない誠実さこそが、
人々の心に触れる。
中村哲

私は「貧すれば鈍する」じゃなくって、
「貧すれば出会う」し、「貧すれば考える」。
人間はその時に、本当の力を発揮する。
そこを私はずっとこの30数年見てきましたから、
今回も必ず新しい一歩につながるといふふうに考えています。

奥田知志

希望はあります。
いつか終わります。
前に進んでいるということは
終わりに向かっているんで。

坂本史衣



私たちには 言葉があつた

困難なとき、ふと出会った言葉に、
慰められたり、励まされたり、
ちよつと前向きになれたりすることがあります。
今だから、響いてくる言葉を集めてみました。
みなさんの内には、いま、どんな言葉が聴こえますか。



出典 『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン 著/上遠恵子 訳(新潮社)、『未来のだるまちゃんへ』かこさとし 著(文藝春秋)、『きっといい日 日めくりカレンダー』晴佐久昌英 著・絵(女子パウロ会)、『クローズアップ現代』(NHK) 2019年12月11日放送、『ベスト』カミュ 著/宮崎嶺雄 訳(新潮文庫)、『毎日新聞』2020年4月26日付、『福島からあなたへ』武藤類子 著(大月書店)、『聖書 新共同訳』(日本聖書協会)、『わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か』平田オリザ 著(講談社)、『おはよう日本』(NHK) 2020年5月7日放送、『天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い』中村哲 著(NHK出版)、『情熱大陸』(毎日放送) 4月19日放送

日本の端っこの島々で起こっていること

PICK UP

沖縄YWCA
ニュースレター
『うーまん世』
3月号より

日本キリスト教団
宮古島伝道所牧師
坂口聖子

宮古島をはじめとする「南西諸島」の島々はいま、大きく変わってきています。日本の中央から見て、端の南西に位置するので、地理的には「南西諸島」と呼ばれていますが、そこに連なる島々は約1,100kmにもわたり、島々の文化や元々の言葉、歴史は異なりますが、「南西諸島」と一言に括られてしまっているのです。この言葉にはかなり雑なイメージがあるのも否めません。いま、これらの島々で、戦争への準備が進められています。沖縄の辺野古や高江の米軍基地建設の影に隠れるような形で、連動する形で多くのメディアには取り上げられない中で静かに軍事化が進んでいます。大きく島のあり方、あるいは自分が肌で感じる空気が変化しています。

いま、「南西諸島」の島々では陸上自衛隊のミサイ基地が次々に建設され、稼働しようとしています。目に見えない国境線を作り、対中国との軍事的対立構造が作られ、目には見えない国境線に位置するのが与那国島、石垣島、宮古島、沖縄島、奄美大島などの島々です。第三次世界大戦のような世界的な戦争は誰も望んではいませんが、中国対日本、中国対アメリカの全面的な戦争を避ける形で、制限的な戦争を模索していることが日本の防衛省の「中期防」やアメリカの「オフショアコントロール」と呼ばれる方針から明らかになっていきます。宮古島においてもたった3年余りで、ミサイル基地建設をはじめ弾薬庫や実弾での射撃訓練場、海上保安庁の施設拡大、あるいは空港の軍事利用優先などの整備が進められ、今後は米軍海兵隊と陸上自衛隊水陸機動団の実弾を使った合同訓練が行われるピーチも整えられていくことが決められています。当初、防衛省や沖縄防衛局は自衛隊駐屯地には「弾薬庫とヘリパットは作らない」との住民との約束がなされましたが、実際は弾薬庫も事実上のヘリパットも建設されました。基地を建設する前から御嶽も「手をつけな」という約束が実際には大幅に削られ、祈りの場としてとても重要な井戸も埋められてしまいました。基地は空洞のある軟弱地盤で南北に断層が走り、その下には飲料水の資源ともなる地下水があるにも関わらず、補強工事はされていないまま、700トンにもなる燃料タンクが埋め込まれ、もし何か起こり、地下水に汚染物質や重油が流れ込

めば直ちに水道が出なくなる危険もあります。また弾薬庫もとても近い民家は100メートルも離れていない場所もあり、約束の放棄と法律違反がまかり通っています。声をあげれば逮捕されることもありうる状況になってきています。アジアや世界の将来を左右する問題が、日本の端っこの島々で進んでおり、これが日本全体の問題ではなく、日本の端っこの「地域」の問題として小さく扱われていることに疑問を感じます。島々の人々は孤立感と危機感を覚えており、直接国を相手に闘うこともしています。島の暮らしは大きく変化しています。宮古島の人口は約5万5千人弱ですが、そこに基地警備隊380名がすでに家族と共に入り、さらに今後はミサイル部隊800名と家族が暮らすことになるでしょう。島の経済面では一見豊かになるかもしれませんが、今後大切な何かを私たちは失うことになるかもしれません。島内でも様々な意見があり、一致するのは非常に困難かつ自分の地域には建設されないと無関心になつてしまうこともあり、問題を共有するのは難しくもあります。この問題をキリスト者としてどのよう

※中期防衛力整備計画



『修道院のお菓子
スペイン修道女のレシピ』

丸山久美 著
扶桑社 / 1,400円+税

ゆったりとしたおうち時間を

スペインで料理修行をしていた著者が、修道院を巡って集めたお菓子のレシピ集。中世の頃から修道女の間で受け継がれてきたお菓子は、どれも素朴でかわいらしい。見た目と同様に、材料も作り方もシンプルで作りやすそう。修道院巡りに役立つ情報を載せたコラムも魅力。レシピと写真から味を想像し、コラムを読んで修道院に思いを馳せる。それだけで満足できるので、ボルボロンを作っただけだった。せっかく家にいるのだから、ゆったりした気持ちで作って家族で楽しむ。そんな時間を過ごしたい。

岡野亜紀子



『世界の果てのこどもたち』

中脇初枝 著
講談社文庫 / 840円+税

ともに乗り越えていくために

戦時中の満洲で出会った3人の少女の物語。終戦後、中国で残留孤児となる珠子、朝鮮分断で故郷を失い、日本で激しい差別を受けて生きる美子（ミジャ）、横浜空襲ですべてを失う茉莉。別々の過酷な人生を生き抜く糧は、肩を寄せ合い分け合って食べたたった一つの「おむすび」の記憶だった——。いま、ウイルスとの闘いは戦争にも例えられている。脅威の前に自分を守ろうとするとき、他者との間に何が起こるのか、それを乗り越えていくものは何か……大切なことに気付かせてくれる一冊。

清田悦子

こんなときだから

そうだ、本を読もう!

家で過ごす時間が増えました。こんなときこそ、本を開こう。忙しい合間に、一人になったときに、小さな発見を試みよう。ちなみに、編集部会のメンバーの「いま、読みたい本」はこちら。読みかけの本、気になっている本、皆さんも読んでみませんか。



『海からの贈物』

アン・モロウ・リンドバーグ 著
吉田健一 訳
新潮文庫 / 430円+税

いま、ここ、個人に立ち返る

著者は、飛行家チャールズ・リンドバーグの妻で5人の子の母親、自らも女性飛行家の草分けであり、作家としても活躍した。かつては「リンドバーグ夫人」だった女の生き方を綴った本書は、65年を経た今でも新鮮さを失わない。女であることは「車の輻のように、中心から四方八方に向かっている義務や関心を持つこと」であり、自らを他へと与え続けているうちにその軸を見失い、内なる泉が枯渇してしまう。自己の内面と向き合い、「いま」「ここ」「個人」に立ち返ることの大切さを教えてくれた。

吉田亜希



『未来のだるまちゃんへ』

かこさとし 著
文春文庫 / 660円+税

私たちへのエールでありバトン

著者の絵本は、物語から科学絵本まで子どもの心をつかんで離さない。原点は敗戦にあった。戦争の空気に便乗しながらも、敗戦時には反省なく民主主義を喜んだ大人たち。自身は同級生を特攻で失い、生きる意味を自問し続ける中で「大人は信用できない、子どもたちのためにお役に立ちたい」と思うようになった。過たないように「ちゃんと自分の目を見て、自分の頭で考え、自分の力で判断し行動する賢さを持つようになってほしい」というかこさんの願い……それは私たちへのエールでありバトンだと思う。

西 文子